

# 【成果概要】1-3 海水温の上昇等によるシロザケ等の漁獲量への影響調査

## 調査結果の概要

### ■ 平成30年度の成果

- 放流適期図の見直しのために行った採捕時の水温の観測データから、沿岸域から離脱して北上を開始する水温について、従来から報告されている13°C（出典：関二郎，2013）を支持する結果が得られた（図.4、図.5）。
- また、サケ幼稚魚の耳石等の分析結果によって、放流後は速やかに河川を下降し、沿岸域において約1ヶ月間を過ごし北上するための準備を行う等、宮城県におけるサケの初期生活史における生態の一部に関する知見が得られた。
- 文献調査を基に行った解析によって、宮城県における水温とシロザケの回帰率との関係は不明確であることが分かった。
  - 当初予定していた水温と回帰率の関係の評価は行わないこととする。

### ■ 明らかとなった課題

- 様々な対策を取ったにも関わらず、放流適期図に合わせた種苗放流が不可能になった際には、大幅な種苗放流システムの変更が必要となる。

### ■ 平成31年度の調査計画

- 海洋将来予測データのバイアス補正及び、シロザケの放流適期に関する影響評価
- シロザケに関する最新の知見の収集
- 適応策の検討

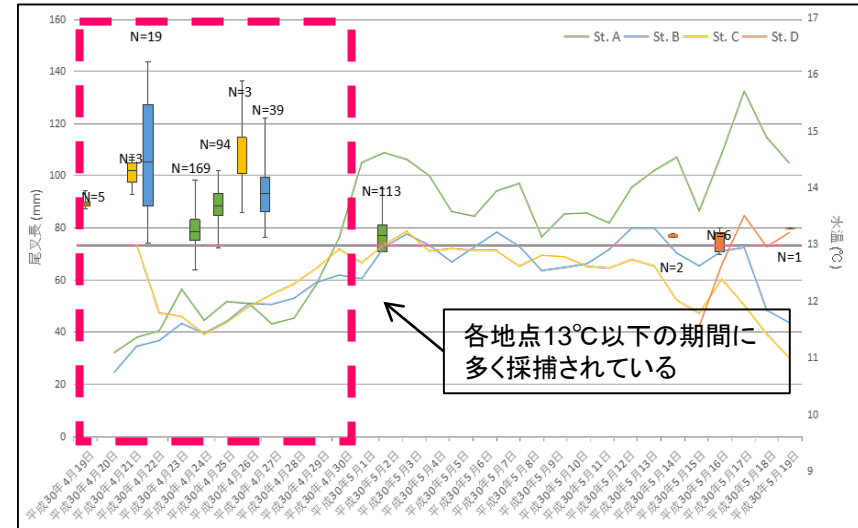


図4. 地点別水温とサケ幼稚魚の捕獲状況  
出典：東北大学提供

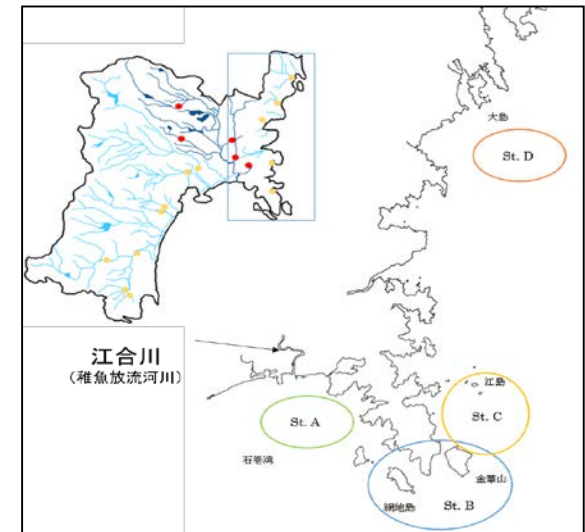


図5. 採捕地点  
出典：東北大学提供